

オオバン（クイナ科） 全長39センチ

今、大浦沼に飛来するオオバンが、日に日に増加しています。

自然湖沼の大浦沼は、多くの渡り鳥が飛来する大事な中継地点となっていますが、禁猟区に指定されていないことから、毎年11月1日の狩猟解禁日になると早朝から鴨撃ちハンターが押し寄せます。前日までマガモやコガモ、オナガガモ、ヒドリガモなど多くの渡り鳥で賑わっていた沼であったが、日の出の銃声と共に誰もいなくなっていました。



遠目には黒い塊に見えますが、クチバシは白かった。

それから3日後、大浦沼にいち早く戻って来たのは、オオバンでした。10羽程が水面に波紋を広げながらスイスイと泳いでいます。他のカモ類が逃げ出すような近距離で眺めても、悠然としたもの。いざとなれば水中に潜ることが出来るからでしょうか。



水中から何かをくわえると、羽をばたつかせながら仲間から離れていった。



私の後に続きなさい、と号令をかけたのかな。

オオバンは大浦沼では繁殖していませんが、秋ごろから日ごとに飛来数が増え始め、11月末には60羽に達しました。何処からやってくるのか分かりませんが、昨年までは沼が結氷する直前まで滞在してくれました。

大浦沼は浮巢を作るバンやカイツブリが普通に繁殖していたが、近年数を減らしています。
大浦沼の自然環境はオオバンの繁殖に適していると思われることから、将来の繁殖に期待をかけています。



アップで見ると、眼は赤かった。



水中から、水草の茎を引っ張り上げました。